



■競技課題1：評価表

項目番号	メジャメント（測定）	3段階測定 ○△×
------	------------	-----------

評価視点

①	視点	説明と同意
	声かけ 介護者	<p>介助内容（着衣・杖歩行・水分補給）の説明と同意の確認ができていた。</p> <p>利用者の体調確認、顔色の確認ができていた。</p> <p>利用者の目線を確認した上で、利用者が認識できる位置から声かけができていた。</p> <p>利用者がバランスを崩さないよう、患側を支えることができていた。</p>
②	視点	安定した端座位
	声かけ 介護者	<p>利用者に健側の手で介助バーをつかんでもらう声かけができていた。</p> <p>利用者が介助バーをつかんでいることを確認していた。</p> <p>利用者の足底が床についていることを確認していた。</p> <p>利用者の両足を肩幅程度に広げることができていた。</p>
	利用者	<p>健側を軸とした端座位ができていた。</p> <p>端座位の安定を確保できていた。</p>
③	視点	着衣介助（自己決定の尊重、潜在能力の活用）
	声かけ	<p>着衣の説明と同意の確認ができていた。</p> <p>衣服選択の促し声かけができていた。</p> <p>利用者のペースを尊重しながら、安全な着衣動作がとれるよう声かけができていた。</p> <p>着衣後の着心地と体調確認ができていた。</p>
	介護者	<p>利用者が衣服を選択できるように衣服をしめすことができていた。</p> <p>患側から健側の順番で着衣介助ができていた。</p> <p>利用者の潜在能力を活かし、タイミングを合わせて介助できていた。</p> <p>利用者がバランスを崩さないよう、患側を支えることができていた。</p> <p>着衣後の衣服の整容ができていた。</p>
	利用者	<p>健側を活用できていた。</p> <p>端座位の安定を確保できていた。</p>
④	視点	端座位から立位（安全配慮、ボディメカニクス）
	声かけ	<p>立ち上がりの説明と同意の確認ができていた。</p> <p>浅く座り直す声かけができていた。</p> <p>足を後ろに引いてもらう声かけができていた。</p> <p>前傾姿勢で立ちあがるよう、声かけができていた。</p> <p>利用者に健側の手で杖をもってもらう声かけができていた。</p> <p>利用者の体調確認、顔色の確認ができていた。</p>
	介護者	<p>利用者が介助バーをつかんでいることを確認していた。</p> <p>利用者がバランスを崩さないよう、患側を支えることができていた。</p> <p>利用者の重心を移動させて、浅く座り直させることができていた。</p> <p>利用者の潜在能力を活かし、タイミングを合わせて介助できていた。</p> <p>利用者の立ち上がりにあわせ、介護者の支持基底面積を確保することができていた。</p> <p>立位後の体調確認ができていた。</p>
	利用者	<p>健側を軸にした立ち上がりができていた。</p> <p>立位の安定を確保できていた。</p> <p>杖を持つことで支持基底面積が確保できていた。</p>
⑤	視点	歩行介助（潜在能力の活用、自立支援）
	声かけ 介護者	<p>歩行の手順の説明と同意の確認ができていた。</p> <p>利用者の姿勢の安定を確認できていた。</p> <p>利用者の患側および後方から、バランスを崩さないよう重心を支えることができていた。</p> <p>歩行の障害物などがないかの安全確認ができていた。</p> <p>利用者の潜在能力を活かし、タイミングを合わせて介助できていた。</p>
	利用者	<p>歩行の安定を確保できていた。</p>
⑥	視点	着座介助（潜在能力の活用、自立支援）
	声かけ	<p>着座手順の説明と同意の確認ができていた。</p> <p>利用者の健側の手をテーブルにつくなどの声かけができていた。</p> <p>前傾姿勢で着座するよう、声かけができていた。</p>
	介護者	<p>利用者を適切な位置まで案内することができた。</p> <p>利用者の姿勢の安定を確認した上で、杖や椅子の移動ができていた。</p> <p>利用者がバランスを崩さないよう、患側を支えることができていた。</p> <p>利用者と一緒に重心を下げて着座介助ができていた。</p> <p>利用者の潜在能力を活かし、タイミングを合わせて介助できていた。</p> <p>足底が床につき、座位が安定しているか確認できていた。</p>
	利用者	<p>座位の安定を確保できていた。</p>

⑦	視点	食事の準備支援（安全な水分摂取のための準備、安全な食事姿勢の確認、自立支援）
	声かけ	水分摂取手順の説明と同意の確認ができていた。 利用者の意欲を確認することができていた。 水かお茶かの意向確認ができていた。 水分摂取の意欲がわくような声かけができたいた。
	介護者	座位の安定を確認できた。 食べやすい座位の位置や体の傾き、あごを引くなど誤嚥を防ぐ姿勢の介助ができたいた。
	利用者	座位の安定を確保できた。 水かお茶かのどちらかにうなずいた。
⑧	視点	食事介助（誤嚥の防止に向けた食事介助）
	声かけ	食事介助に入る前に、口の中に食事が残った状態にないかの確認ができていた。 むせこみの程度について（詰まっているか、苦しみの程度など）の確認ができていた。
	介護者	自力での摂取を促すことができていた。 利用者と同じ目線の高さで介助することができていた。 利用者の飲み込みを確認することができていた。 背中を軽くさするなどをして状態の変化（咳の強さ、顔色など）を観察できていた。
	利用者	飲み込みやすい姿勢で食事ができていた。 自力で水分を摂取できた。

全体	ジャッジメント（判定）	5段階判定				
	介護手順	5	4	3	2	1
	尊厳・意向の尊重の姿勢	5	4	3	2	1
	自立支援・安全安楽	5	4	3	2	1
	ボディメカニクス	5	4	3	2	1

- |            |                              |
|------------|------------------------------|
| 5 特に優れたレベル | 全体的に水準を上回り、最高峰の対応            |
| 4 優れたレベル   | 水準を満たしており、部分的には水準を上回る        |
| 3 平均的レベル   | 水準を満たしている                    |
| 2 改善レベル    | 部分的に水準を満たしていないものがあり、改善の余地がある |
| 1 未実施      | 実施できていないまたは対応が未熟である          |